

土地管理情報の共有について

現状と課題

下記のとおり 日本測量者連盟第7部会と財団法人日本建設情報総合センターシステム高度化研究部の共催で研究会がもたれましたので、概要を報告します。

日時： 平成22年 6月22日

場所： JACIC 第2会議室 参加者17名

次第：

- 14:30-14:40 趣旨説明
JFS 第7部会
海津 優 ((財) JACIC)
- 14:40-15:10 わが国の土地管理情報の現状と課題
日本土地家屋調査士会連合会
藤木政和 (日調連研究所所長)
- 15:10-15:40 国土調査完了地区における土地管理
長岡和美 (国土情報開発株)
- 15:40-15:50 休憩
- 15:50-16:20 固定資産業務と土地管理情報
松浦 悟 (第一航業株)
- 16:20-16:50 地価鑑定情報の現状と課題
野上 哲 (大和不動産鑑定株)
- 16:50-17:00 休憩
- 17:00-17:45 討論
- 17:45-17:55 まとめ
- 17:55-18:00 挨拶
梅原芳雄 ((財) JACIC 理事)
- 18:00 閉会

〈議事概要〉

冒頭、海津よりこの研究会を立ち上げた趣旨を説明、土地関連情報のインターネット配信の状況、各分野での大縮尺情報の利用状況などを踏まえて、今回は現状と課題を明らかにすることが目的である旨説明があり、議事に入った。

まず日調連研究所の藤木所長より、地籍の種類、世界の動き、土地管理情報の考え方等の基礎的な説明に続いてわが国における地籍や登記の状況を説明いただいた。質疑では、地図の背景にある権利との関連、数値化の進展で GIS 的なものが意識されていることなどが議論された。

次に国土情報開発の長岡部長から最近の地籍調査の状況と、成果の維持管理における数値管理、ウェブ地図配信等を踏まえて地籍フォーマット 2000 の役割を解説していただいた。質疑では更新時の登記所との連携を数値で行うことの重要性が共通に認識され、地籍フォーマット 2000 の役割が大切であることが議論された。

休憩を挟んで第一航業の松浦部長から固定資産業務での地番現況図の状況、地籍完了地区においても二重更新がなされている問題について、地籍成果は保管して閲覧に供するだけでなく、利活用を促進すべきという立場で説明いただいた。

引き続き、大和不動産鑑定の野上部長より地価鑑定の現状、地価の種類とその間の関係、公開状況、外国の現状について基礎的な話をいただいた上で、土地の時価評価が企業会計に導入される中で、鑑定が重要性を増しており、筆ごとの土地管理情報が重要となっているとの説明をいただいた。

その後休憩を挟んで総合討論に移り、わが国では土地管理情報は個々の部署ではかなりよく管理されているが、部署間の連携にまだ問題なしとしないのではないかと、杭の位置情報をしっかり持っている地籍の情報を税務にも活用すべきであろう等の意見が出された。データの特徴や各種手続きについて、それぞれに詳しい参加者から具体的な解説をいただきながらデータの整備はおのこの事業により目的を持ってなされるものであるが、システムを使い込みながらより適切なデータに順次置き換えてゆく等、連携をとって、次第に位置精度のよいものに育ててゆくマインドが大切であるとの共通認識が得られた。データの相互参照に当たっては、LCDM のようなフォーマット等の情報交換システムも有効であるとの認識が示された。一方で、地番現況図と地籍データの関係については、杭の座標を持つ地籍データへシフトすることが好ましいとの基本的認識が共有されたが、日常業務の上で手馴れたデータ、内部資料ということで、統一的な扱いの上で制約の少ないデータが好まれる可能性があることや、古い図解法の地籍図では、図の接合部に現在のデジタル処理の立場から考えると若干問題のあるケースもあるのではないかと等についても発言があった。活発な討議がなされ、これを機会に更なる勉強を積み重ねたいとのことで会を終了した。終了に当たり、(財) JACIC の梅原理事より、経験談を交えて、GIS や土地問題は重要な課題であるところ、このような研究会が開かれることを歓迎する旨の挨拶があった。

(海津)